

令和 7 年度 創薬サイエンス部門研究支援

早田 敦子 (大学院歯学研究科)

【研究概要】

(新規課題)

化合物ライブラリースクリーニングを用いた PACAP-PAC1 シグナルを介した新規抗うつ薬の開発

(歯学研究科・薬理学講座・早田敦子)

下垂体アデニル酸シクラーゼ活性化ポリペプチド (PACAP) は、中枢および末梢神経系に広く発現し、神経の伝達や調節に作用する神経ペプチドである。これまでに、PACAP シグナルが精神的ストレスの生理学的応答に関与することや、PACAP-PAC1 シグナルの活性化により海馬の樹状突起スパインの密度が増加することが明らかになっている。本課題研究では、化合物ライブラリーを用いたハイスループットスクリーニングを実施することで PAC1 シグナルを活性化する化合物を探索し、既存薬とは異なる作用機序の抗うつ薬の創出を目指す。